

社会学科生のための学びのガイド

2019



明治学院大学社会学部社会学科

はじめに

ご入学おめでとうございます。今、これから始まる大学生活に胸を膨らませていることと思います。社会学とはどのような学問なのか、大学とはどのような勉強をするところなのか、不安もあるかもしれません。

この冊子は、これから4年間の皆さんの日々の学習を支える「ガイド」です。

前半部分には、4年間の学習がどういう順番で進んでいくのか、社会学科の専任スタッフにはどのような先生がいるのかに関する資料が載っています。早くから自分にあった履修の計画を立て、コース選択（1年秋）、ゼミ選択（2年秋）、演習1、演習2と関心を深めていけるようにしましょう。

後半部分には、「勉強の仕方」や「資料の探し方」に関する資料をまとめました。大学での学びは、自分で本や資料を調べ、自分の考えを客観的にまとめ上げていくことが必要になります。発想の仕方や調べものをする技術、レポートや論文の書き方は、社会学科生が全員履修することになっている「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」

（1年次）と「コース演習」（2年次）や、「演習1」（3年次）、「演習2」（4年次）、さらには日々の講義や社会調査関連科目の中で、詳しく学んでいくこととなりますが、ぜひこの冊子を手元に置いて、早いうちから勉強やレポート作成の手助けとするようにしてください。

本ガイドの内容は、社会学部のホームページ (<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>) にも記載されています。ホームページの情報は、毎年更新されることがありますので、ぜひあわせて利用してください。先生方のさらに詳しい紹介は、冊子『社会学とはどのような学問か』（こちらホームページに最新版を掲載）にも載っています。

大学での勉強の仕方に戸惑うこともあるかもしれません。この冊子を使いこなして、それぞれの学びを深めていくことを願っています。

社会学科 教員一同

目 次

社会学科の学びの進め方	3
4年間の学びの見取り図	4
コース制とは	6
社会調査関連科目～社会調査士取得への道～	8
専任教員紹介	10
ホームページ案内	12
日々の学びのサポートガイド.....	13
レジュメの書き方見本～アカデミックリテラシー～	14
レポートの書き方ガイド～アカデミックリテラシー～	16
レポートの書き方ガイド2～社会学基礎演習～	18
レジュメのサンプルと注意点～コース演習～	20
ディベートの手引き～コース演習～	22
社会統計・社会調査データ収集ガイド～コース演習～	25
社会学科の授業で使用する教科書および参考書の紹介	28
図書館文献検索ガイド～図書館より社会学科生のみなさんへ～	29
課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～	30
社会学部生のための文献引用の手引き	32



社会学科の学びの進め方

社会学科での4年間の学びはどのように進んでいくのでしょうか。

基本となるのは、「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」(1年次)、「コース演習」「質的データ分析」「表現法演習」(2年秋)のといった少人数クラスと、3,4年次の「演習1」「演習2」(いわゆる「ゼミ」)です。これを軸に、専門科目と社会調査関連科目を計画的に履修していきましょう。

社会学科はコース制を採用しています。専門科目を履修する際には、コース科目をまず重点的にとっていくこととなります。コース選択は1年次の秋に行われます。コース科目をとりながら、より専門的に学びたい分野を考えておくとよいでしょう。

2年次の秋には、課題レポートと面接で、3,4年生に所属するゼミ(演習)を決めることとなります。ゼミを開講しているのは、主に専任の先生となります。ゼミが決まったら、2年間で専門を深め、学びの集大成として卒業論文の執筆にチャレンジしてください。

また、専門科目に並行して、社会調査関連科目を履修しておくこともおすすめします。所定の科目をとると、「社会調査士」という専門資格をとる道が開かれます。また、資格を希望しない人も、卒業論文を書く際に調査法の知識が必要となることもありますから、履修を検討してみてください。

4年間、計画的に履修を進め、学びが深まっていくことを期待します。

コース制とは

1年生秋に「文化とメディアコース」「生命とアイデンティティコース」「環境とコミュニケーションコース」のうち、自分の興味関心に沿ってコースを選び、2年次からはコース科目を重点的に履修します。他のコースの科目も履修できます。どのコースの科目も幅広い領域にわたって社会学の先端をカバーしています。

文化とメディアコース

メディアというとマスメディアやインターネットを思い浮かべるかもしれませんが、それが全てではありません。メディアの本来の意味は情報の伝達媒体ですので、口コミであっても立派なメディアです。

人々がどのように情報を生み出し伝達していったのかという、コミュニケーション過程とその影響は、人間の社会的活動の本質ともいえるでしょう。伝えられていった内容が、宗教や民族意識などの文化的基盤を築き、「社会」の姿を形成することもあるからです。

一方で、技術の発達によって、これまで物理的距離や社会制度の違いなどのために隔てられてきた人々や文化の交流が進むようになってきて、予想もしていなかった摩擦や問題などが発生する結果も生じました。こうした現実をどのように捉えるべきか、学んでいきます。

キーワード：宗教、エスニシティ、社会規範、コミュニケーション、情報

生命とアイデンティティコース

社会学というと、抽象的な「社会」なるものを研究対象として、個としての人間に関心が薄いと思っている人もいるかも知れません。けれども、実際には決してそんなことはありません。

むしろ、人間に関心があるからこそ、彼らがより良く生きるために「社会」はどうなっているのか、あるいはどうあるべきかに目を向けているといえます。そのため、科学技術の発展や社会制度の肥大化に伴い、一人一人の人間の姿が見えにくくなったり、その尊厳が脅かされかねなかったりする現状に対して、社会学は真剣に取り組んでいます。

人間の生の営みが、どのように「社会」から影響を受けているのか、あるいはどのように「社会」を変えていったのか、多彩な視点から学んでいきます。

キーワード：ジェンダー、セクシュアリティ、医療、健康、身体、犯罪、差別

環境とコミュニティコース

一口に「社会」といっても、意味する内容は多様ですが、変わらないのはそこに人と人の繋がりが存在していることです。たとえば、顔の見える人々で構成されたコミュニティは、私達にとって最も身近な「社会」で、家族はもちろん、住んでいる地域にも町内会などの形で存在していますし、学校や企業にも様々な形で含まれています。

一方で、全世界規模の人々のネットワークがますます拡大する時代を迎え、地球の裏側で起こったことが私たちの生活を変え、私たちの身近な行動の一つ一つが世界全体に影響を与えてしまうようになってきています。地球環境問題はその一例ですが、本来、環境とは地球規模だけで語られるものではありません。実は一人の人間を取り囲むもの、その全てが「環境」でもあります。

このように、私たちが当たり前と思っている身の回りの物事の背景の広がりや、縁遠いと思っている出来事が私たち一人一人の生活に与える影響などを、様々な視点から学んでいきます。

キーワード：社会的ネットワーク、地域、都市、教育、労働、家族



社会調査関連科目～社会調査士取得への道～

「社会調査士」資格は、2004年にできた公的資格です。官庁・自治体などが行う各種の統計調査、企業やNPOなどが行う市場調査や世論調査に必要な社会調査の知識や技術を身につけ、さらに社会学の学習にとっても重要な社会事象等を捉える能力をもった「調査の専門家」を養成するために作られた資格です。

この資格は、資格試験を受験して取得する国家資格ではありません。社会学系の大学で設置されている社会調査士指定の科目を履修し、単位を取得した学生が、日本社会学会などの学会がもとになって作られた「一般社団法人 社会調査協会」に申請する（認定料が必要）と、大学卒業時に与えられるものです。

社会調査士資格には、「専門社会調査士」（大学院博士前期課程の大学院生対象）と、「社会調査士」（4年制大学学部生対象）の2種類がありますが、社会学科の学生が履修し資格申請できるのは「社会調査士」です。「専門社会調査士」を取得するには、まず学部で「社会調査士」を取っておく必要があります。

資格申請に必要な指定の科目をすべて履修し単位を取得するには、最低でも3年はかかりますので、社会調査士を取ろうと考える学生は、以下の説明をよく読んで4月からの科目履修を行い、計画的に学習することが必要です。

社会調査士指定科目は、いずれも社会学科の卒業単位となる学科科目でもあり、社会学を学ぶ上でも必要なものですが、とくに社会調査士の資格を取ろうとする場合は、3年次に設置されている1年間の「社会調査実習」を履修し単位取得しなければなりません。この科目を履修するには前年度までに「社会調査の基礎」「社会調査の技法」「データ分析入門」の単位を取得している必要があります。また、卒業までに指定の6科目を単位取得しなければなりません。3年次までに必要な科目を履修・単位取得できる場合は、3年次のうちに「社会調査士キャンディデイト」の申請（取得見込み認定の申請）ができます。

社会調査士の資格対象となる指定科目「社会調査士」資格の申請には、以下の指定科目を履修し単位を取得することが必要です。A～D、およびGの5科目はすべて履修する必要があります。E、Fの2科目はどちらかひとつを履修し単位取得していることが必要です。社会調査士資格を希望する場合は、1年次の科目履修では春学期の「社会調査の基礎」と秋学期の「社会調査の技法」を必ず履修してください。この科目は社会調査の入口になる科目で、横浜校舎だけで開講されますので、とっておかないと2年次以降の社会調査士科目の履修がたいへんになります。

表1 社会調査士指定科目

* 人数制限あり

【A】社会調査の基礎（社会調査の基本的事項に関する科目） 2単位 1年生以上

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含む。

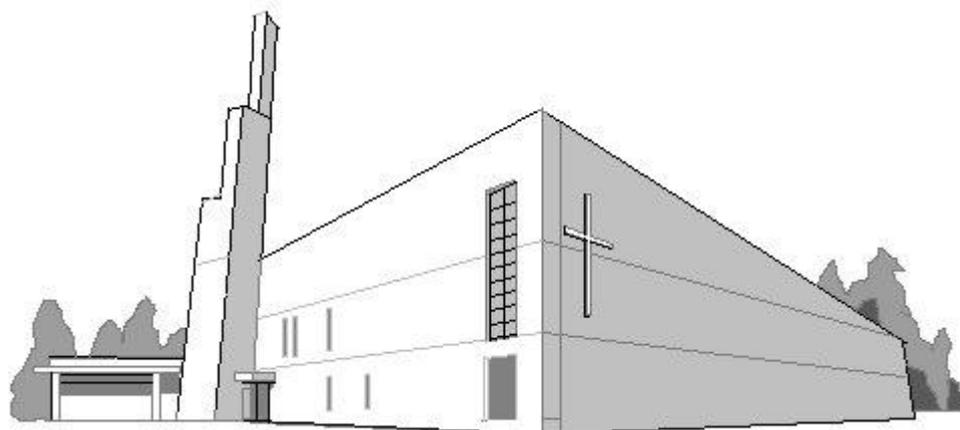
<p>【B】社会調査の技法（調査設計と実施方法に関する科目） 2 単位 1 年生以上</p>
<p>社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法（全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差など）、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）など。</p>
<p>【C】データ分析入門（基本的な資料とデータの分析に関する科目） 2 単位 2 年生以上 *</p>
<p>公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関する科目。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを含む。</p>
<p>【D】社会統計学（社会調査に必要な統計学に関する科目） 2 単位 2 年生以上</p>
<p>統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識に関する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。</p>
<p>【E】数量データ分析（量的データ解析の方法に関する科目） 2 単位 2 年生以上 *</p>
<p>社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する科目。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、数量化理論、マルチレベル分析など）の中から若干のものをとりあげる。</p>
<p>【F】質的データ分析（質的な分析の方法に関する科目） 2 単位 2 年生以上 *</p>
<p>さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。参与観察法、フィールドワーク、インタビュー等の質的調査の方法、および、ライフストーリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等の質的データの分析法（質的データ分析ソフトの使用法を含む）など。</p>
<p>【G】社会調査実習/社会教育調査実習（社会調査の実習を中心とする科目）4 単位 3 年生以上 *</p>
<p>調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について、体験を通じて学習する科目で、中心となるものは量的調査あるいは質的調査のどちらでもよい。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接等データ収集）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を含む。</p>

専任教員紹介

教員氏名	主要研究テーマ	ゼミ(または授業)内容
浅川 達人	都市の社会・空間構造 研究および被災地復興 支援活動研究	都市社会の構造転換とコミュニティの変容について、そこで暮らすあるいはそこを行き交う人々の流れに身をおいて考えます。また東日本大震災の被災地復興支援活動について社会学的に考察します。
石原 俊	グローバリゼーションと コロニアリズムの歴史 社会学的研究	19世紀以降、グローバリゼーションと植民地主義の frontline に置かれた地域社会とりわけ島嶼社会の人びとが、苦闘を重ねながらどのように生きぬいてきたのか、歴史社会学的観点から考えていきます。
石原 英樹	異質な他者とのコミュニ ケーション・共存をめぐ る課題と解決	人々の認識や行動の非合理的な側面、現代社会のアポリア(行き詰まり)を理解した上で、異質な他者(世代、階層、ジェンダー、外国ルーツなど)がコミュニケーションをとり、共存するために何が必要かを考えます。
稲葉 振一郎	倫理学・社会哲学の基 礎と応用	「人間」とはいったい何か。なぜ「人間」を大切にしなければならないのか、に関する共通理解がいま大きく揺らいでいる。具体的な社会問題を通して考えます。
岩永 真治	グローバリゼーション、 市民権、都市、地域、ま ちづくり	都市生活とはなにか、地域で生活するとはどういうことか。文化の多様性、社会参加、豊かさの問題等を考察し、だれもが参加できるまちづくりを提案していきます。
大久保 遼	メディア研究、文化社会 学、映像文化論	様々なテクノロジーに媒介され、大きく変動しつつある現在の文化現象を、社会学的に分析することを目指します。
加藤 秀一	ジェンダー/セクシュアリ ティ、フェミニズムの理 論	性現象研究。性差・性役割・性差別、性暴力、恋愛、結婚・家族、同性愛/異性愛、生殖医療、優生思想など、「性」をめぐるあらゆる問題を根元的に考察していきます。
鬼頭 美江	対人関係における行動 と心理過程に関する研 究	対人関係(恋愛関係や友人関係など)の形成・維持に関わる要因、および対人関係と社会環境が相互に与える影響について考えていきます。
坂口 緑	生涯学習論、教育の公 共性に関する研究	多層的な市民社会の形式に関心があります。生涯学習の理論と現場を往復し、消費と労働だけでない生き方モデルを探したいと考えています。
佐藤 正晴	日本のメディア、ジャー ナリズムの歴史的考察	現代社会を一定の歴史展望のもとにとらえるためのメディア史の実証的分析。さらにメディアという視角から政治・社会・文化・経済などを考察していきます。
澤野 雅樹	広義の侵犯行為の事 例を通じて、法と社会の 論理を考察	法と侵犯の研究。社会を構成し作動させる法と、社会の中で制定・施行される法とを区別し、主に前者に関わる逸脱行為を扱いながら、社会の根源にまで迫っていきます。

柘植 あづみ	医療・生命科学技術の課題を文化・社会的文脈から考察	現代医療の医療人類学的研究。生殖医療技術・生命科学技術と文化・社会的諸要因との相関関係を事例研究によって検討していきます。
野沢 慎司	現代の家族など人間関係ネットワークを幅広く考察	現代家族と社会的ネットワークの研究。離婚・再婚後の家族など多様な家族を取り上げ、親族・友人・支援団体などと関連づけて考察します。
半澤 誠司	コンテンツ産業の立地、取引関係、労働市場などの研究	文化的要素と経済的要素の双方が重要なコンテンツ産業を対象に、主に企業間関係に力点を置きながら、文化と経済の関係性への理解を深めます。
藤川 賢	社会学から地域開発と環境問題を考察	環境問題研究。現代社会の基本的矛盾を象徴する環境問題を、社会的に地域に即して分析し、その解決法を考えていきます。
元森 絵里子	子ども・教育・社会をめぐる言説の歴史的・理論的考察	教育や子どもに関する言説(議論)の歴史的変容を、そのメカニズムとともに分析します。言説に関する社会学的視角についても考えていきます。
安井 大輔	現代世界のエスニシティ、社会階層、食の研究	異なる民族や文化の関係をどう理解すればいいのか。「私たち」と「彼ら」を分ける差異はいかにして作られ、維持・変容していくのか。「移民」と「食」に注目し、世界と日本の「他者/異文化」を分析・考察します。

2019年4月1日現在(50音順)



ホームページ案内

○社会学部オリジナルホームページ <http://soc.meijigakuin.ac.jp/>

○社会学科オリジナルサイト <http://soc.meijigakuin.ac.jp/gakka/>

社会学科の最新ニュースや、教員やゼミの情報、本ガイドの PDF 版など学びに必要な資料が入手できます。ぜひ活用しましょう。本 HP から、さらに以下の特別サイトに進めます。

- 社会学科のカリキュラムをわかりやすく説明するスペシャルコンテンツ「社会学とは」「社会学をつかう」「フィールドワーク主義」「顔の見える少人数クラス」の 3 本柱からなる基本カリキュラムの説明です。履修プランを立てるために、早めに全部読んでおくとよいでしょう。
- ブログ「日々の社会学科」
社会学科の行事報告やゼミや教員の活動など、社会学科がわかるような記事をリアルタイムで発信していきます。先輩の活動からこれからの学びのヒントが得られますし、もしかすると自分が登場してしまうことも。ぜひこまめにチェックしてみてください！

○社会学部 Twitter アカウント @MGU_SOC

日々の社会学科更新情報などをつぶやきます。





日々の学びのサポートガイド

みなさんは、これから卒業まで、たくさんの調べ物をして、たくさん発表をしたりレポートを書いたりすることになります。

ここでは、まず、レジュメとレポートの書き方、考え方の基本がわかるように、1年次の「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」、2年次の「コース演習」の教材を掲載します。もちろん、個々のレポートの内容や形式、分量は、授業や先生によって異なる場合がありますから、その都度指示を確認してください。しかし、準備の仕方や執筆の仕方の考え方の「基本」はこのガイドに凝縮されているはずです。

具体的に「先行研究調べ」や「事実調べ」をするためには、図書館やインターネットサイトを活用しましょう。「図書館文献検索ガイド」（図書館作成）と「社会統計・社会調査データ収集ガイド」（2年次コース演習の資料）を載せておきます。なお、「アカデミックリテラシー」と「社会学基礎演習」では簡単な課外活動をしてもらいますので、その際の手引きも載せておきます。より専門的な調査の技法は、ぜひ社会調査関連科目を履修して身につけてください。

最後に、レポートで忘れてはならないのは、自分の考え・文章と他人の考え・文章を区別することです。そのための「引用」という手続きについて、「社会学部生のための文献引用の手引き」を最後に掲載しました。卒論を書きあげるまで、社会学科で文章を書く際の最低限の「マナー」になりますから、早いうちに慣れてしまいましょう。

レジュメの書き方サンプル～アカデミックリテラシー～

日付と名前が必須。

何に関するレジュメかを明記。ここでは科目

対象となる資料名を明記。

20XX年X月XX日

報告者：**SG*** 名前

塩原良和・竹ノ下弘久，2010，「はじめに」 塩原良和・竹ノ下弘久編『社会学入門』弘文堂，pp.1-10.

章、節、小見出しなどは必ず書く。
頁もあると望ましい。

1. 人は、独りでは生きられない (pp.1-2)

▶社会学を学ぶ際の基本的前提・・・人は独りでは生きられない=人は社会的存在

ただ文字を並べるのではなく、視覚的な表現も工夫すると分かりやすい。

詳しく考えると・・・

特に重要な箇所やキーワードは下線や太字で。

独り

生きられない

A 個別具体的な他人との関係がない	X 生命が維持できない
B 社会を動かす・規範・制度・システムとの関わりを持たない	Y 社会的に意味ある人生が送れない

以上の4つ (A-X、A-Y、B-X、B-Y) の意味をもちうる。

▶Aの意味での、「人は、独りでは生きられない」

- ・A-Xの観点での「自己責任」論や、A-Yの観点でのひきこもりやニートといった点など、現代社会を考える上でのヒントになる。
- ・ただし、こうした個別具体的な個人間の関係も社会学の対象ではあるが、隣接領域と比べればユニークなのは、Bの意味での「人は、独りでは生きられない」を考えることにある。

2. 分業と相互依存 (pp.2-3)

▶B-Xの意味での「人は、独りでは生きられない」

- ・現代社会では、市場メカニズムを通じた相互依存なくして生命維持ができない。
- ・社会的分業が進み、専門化システム (A.ギデンズ) によって我々の生活は支えられている。
- ・グローバル化が進み、どこにいようと様々な危険 (リスク) (U.ベック) からは逃れられない。

3. 構造の束縛 (pp.3-5)

▶B-Yの意味での「人は、独りでは生きられない」

- ・我々の人生の意味が、社会との関わりの中でどのように変わっていくかを考えること。
- ・我々の選択は、社会構造によって束縛されている。
- ・我々の振る舞いは社会化 (T.パーソンズ) され、そうして身に付いた価値観や態度はハビトゥス (P.ブルデュー) として内面化され子供に受け継がれる。

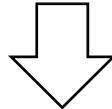
ページ番号は必須。

4. 変革への想像力 (p.5)

- ▶ 社会の仕組みは変革できる
- ・ 「世の中の仕組み」を知る力をもつこと、つまり 社会学的想像力 (C.R.ミルズ) を獲得することが社会学を学ぶ意義。

5. 批判的思考・再帰的实践・対話 (pp.6-7)

- ▶ 社会学を学ぶ4つの利点
- ① 価値観の多様性を認識し、常識を相対化する
 - ・ 世間の常識に囚われず、自分なりの考え方を身に付ける。
- ② 批判的思考を鍛える
 - ・ 多勢に流されて自分を見失ったりせず、個人や社会が健全であるために、現状の問題点を見極め、より良い社会や生き方について考えていく。
- ③ 再帰的な実践を身に付ける
 - ・ 現代社会で進む「個人化」(Z.バウマン)に対応するために、再帰的自己 (A.ギデンズ) を確立する。
- ④ 他者との対話と熟議をつうじて、より良い他者・社会との関わり方を構想する
 - ・ 再帰的な実践には、対話と熟議をつうじて他者との良い関わり方を模索する必要がある。



まとめると・・・

「(前略) 社会と自己の関わりについて思考し、対話し、実践していくのが社会学である。したがって、社会学の問いに、唯一の正しい答えはない。」(p.7)

本文を要約した引用 (間接引用) にはカギ括弧を付けていなかったが、本文の一部をそのまま抜き出す引用 (直接引用) にはカギ括弧を付けなければいけない。どちらも引用ではあるが、区別には注意しよう。

6. 本書の構成 (pp.8-10)

・・・(省略)・・・

当然、普通は省略しないが、今回は例外。

○考察

必ず考察を付ける。自分なりにテキストを理解するためにも、それを読んで積極的に自分の考えを広げてみよう。

- ▶ 日本は空気を読む社会だといわれるが、これは過剰に常識を守ろうとする意識の強い人が多いことから生じているのではないだろうか。といて、多くの人が常識を相対化して、ほとんど常識がない社会になってしまっても、これはこれで生きづらいと考えられる。

○論点

必ず論点も付ける。みんなで議論をするための出発点なので、色々な意見が出やすい論点を考えてみよう。そして、議論を通じて自分の理解と考えをさらに深め

- ▶ 基本的には守るべき常識と、積極的に疑うべき常識の判断基準はあるのだろうか？
- ▶ 現代日本では非常識とされているが、別の時代や地域では常識とされていたものには、どのようなものがあるだろうか？

レポートの書き方ガイド～アカデミックリテラシー～

1. レポートの書き方——準備編

- 大学で求められるレポート（および論文）とは、自分の意見を「客観的に」述べる文章です。「客観的に」というのがポイントで、思い込みや感想だけを書き連ねても、レポートにはならないことに注意してください。小説のような説明不足気味の詩的表現も、唐突な決意表明で終わる投書欄向けの作文も、残念ながらレポートという場ではふさわしくありません。では何に注意すればいいのでしょうか。ポイントは二つ。ひとつは、「先行研究調べ」、もうひとつは「事実集め」です。
- 「先行研究調べ」とは、自分が書こうと思っているテーマについて、これまでどのようなことが言われてきたのかを調べることです。専門書や論文を読み、気づいたことを付箋紙やノートにメモしましょう。
- 「事実集め」とは、自分が書こうと思っているテーマについて、どのような具体的事実があるのかを調べることです。統計資料や新聞記事、白書、議事録、ルポルタージュを検索しましょう。いつでもアクセスできそうなサイトであっても、重要な図表はプリントアウトをして手元に置いておきましょう。アクセスした日付も忘れずにメモしましょう。
- レポートを書き始める前に、次の(1)～(3)を準備しましょう。(1) 関心のある領域について最低2点の文献を読み、そこに述べられていることを整理する。(2) 統計資料等で基本的な事実を確認する。そして(3) 自分がレポートで書きたい「テーマ」を絞り込む。準備ができたならさっそく書き始めましょう。

2. レポートの書き方——執筆編

- レポートの構成要素はシンプルです。「序論・本論・結論」。これに尽きます。けれどもその中身は？ 順に押さえるべきポイントをご紹介します。

(1) 序論…テーマ設定の理由を書こう

- ・ テーマとは、問いである

「テーマ」をどうやって絞り込むのか。これは大きな問題です。コツは、疑問文に変換すること。例) 「〇〇について」→「なぜ〇〇は××なのか」あるいは「どのようにして〇〇は××となったのか」。漠然と〇〇だった「テーマ」を××という別の観点から疑ってみると、何を書きたかったのかが分かりやすくなります。レポートの冒頭に、このテーマを選んだ理由を書きましょう。

(2) 本論…先行研究調べ、仮説、論証を書こう

- ・ 先行研究調べとは、比べることである

あなたがこれから書こうとしているテーマは、たとえものすごく独創的なもののように思えたとしても、他の誰かがすでに考察し終えた問題だったりすることがあります。がっかりする必要はありません。その人たちの力を大いに借りましょう（Google Scholar 風に言えば「巨人の肩の上

に立つ)。先行研究調べとは、「巨人たち」の知見を借りてきて比べることです。コツは、異同を見つけ、自分の立ち位置を示すこと。この部分の記述があれば、間違いなくアカデミックな文章に仕上がります。

- 仮説とは、さしあたりの答えである

ここであなたの頭脳の出番です。仮説を自由に考えましょう。何を考えるのか。さきほど「テーマ」にした「疑問文」に対する答えです。さしあたりの答えでかまいません。こうなのではないかと思ったことを「仮説」とし、先へ進みましょう。

- 論証とは、持論の正当化である

レポートのメインとなるのは、この部分。仮説に対する論証です。レポートは、自分の意見を「客観的に」述べる文章です。準備で調べたデータが手元にありますね？ ほら、こんなデータが、とおおっぴらに見せびらかしましょう。準備で文献を読んだ時のメモが手元にありますね？ ほら、この人だってこう言っている、と文献を引用し、他人を味方に引き入れましょう。そして別のパターンでも攻め込みましょう。「この人はこう言っているけれども、あの人はこう言っている」。いい技ですが、とっておきはこれ。「この人はもっともらしくこう言っているけれども、データを見ると実は疑わしい」の技です。文献を読み、データを調べ、引用し、多様な技で持論を正当化していきましょう。

(3) 結論…結論を書こう

- 結論とは答えである

仮説を検証した結果、結局どうだったのかの答えを文章にしましょう。

3. 引用について

- レポートや論文で、自分の意見を客観的に述べるためには、根拠となる証拠を示す必要があります。それが引用です。
- 何より大事なのは、他人の考えや文章を利用する場合は、それが自分の考えや文章ではないということを明記するということです。ちなみに、プロの物書きや研究者がこの点を怠ると「盗作」や「盗用」の汚名に塗れ、作家生命ないし研究者生命が断たれるほど重大なことです。学生も同様です。本学でも「盗用」に対しては、厳しい処分が科されます。
- 引用の形式は、「社会学部生のための文献引用の手引き」を必ず参照してください。
- その他の細かい作法については、クラスの担当教員にどんどん質問してください。

レポートの書き方ガイド2～社会学基礎演習～

ダメレポートを書かないために～改めてレポートとは何か～

- 序論（第1章）→テーマ設定をする
 - ・論じたいテーマを明確にする
 - ×「〇〇について」（例：いじめについて）
 - 「〇〇についての××論について」「××から見る〇〇について」（例：いじめが増加しているという議論について、ラベリング論から見るいじめ問題について）
 - ・そのテーマを論じるべきだと思った理由を述べる
 - ×着想のきっかけ・個人の思いだけを書く（例：「〇〇が好きだから」「〇〇が気になったから」）
 - きっかけが個人的なものでもそうでなくても、それが社会的な考察の対象になりそうだった理由を述べる 参考）「社会的想像力」（ライト・ミルズ）
 - ※社会的な問題、複数の人々に関わることをテーマに選ぶ
 - ※執筆の際のキーワードを3つ以上考えてみて、1つは社会学のテキストに出てきそうな用語にする
 - ・テーマを「問い」の形にする→疑問文の形にする（Yes/No or 5W1H）
（例：いじめは増加していないのではないのか、いじめは本当に増加しているのか、いじめ問題をラベリング論から見るとどうなるか）
→問うに値する問いを立てられるかどうかで、レポートの成否が半分以上決まる
- 本論（第2～4章）→「証拠」を示しながら、「答え」に向けての論を組み立てる
 - ・各章が「問い」から「答え」に至るのに必要不可欠なパーツであるべき
 - ・「証拠」＝①先行研究（参考文献や公開されている統計資料）からの引用、②自分で社会調査（アンケートやインタビューなど）をして得たデータ
 - ・証拠をあげながら、それを自分なりに検討し、結論へと議論を組み立てていく
 - ・論理的に文章を組み立てることも重要
- 結論（第5章）→自分が序章に掲げた「問い」への筆者なりの「答え」を書く
 - ※「問い」に対応した「答え」にたどりつかないということは、レポートがどこかでねじ曲がったということ！→「問い」を立て直す？途中の論を考え直す？
 - ※「答え」とは、問題に対する改善策ではない。自分が立てた「問い」に対応していることが重要。（例：いじめは増加していないことがわかった、いじめに関するラベリング論は～、～、～の3つの立場があることがわかった）※当然、問いが「いじめ問題をどうしたら解決できるのか」だったなら、自分なりにたどりついた解決策が「答え」になるはず
 - ×唐突な精神論で締めくくる【最悪！】←これは、「問い」を立てて「答え」を導くという学問的作業とは無関係（例：ひとりひとりが努力していかなければならない、私も気をつけていきたい）
 - オプションで、今後の課題や、判明しなかったことなどを書くのはOK

- 参考文献→「社会学部生のための文献引用の手引き」に準じてきちんと書く
- ・引用の仕方がいい加減なレポートの評価は下がる
- ・盗用（いわゆるコピー）が判明した場合、試験のカンニングに準じた処分が下されることがある



レジュメのサンプルと注意点～コース演習～

浅川達人「社会地図と社会学ー見えない社会をつかむために」報告用レジュメ

2019年●月●日

報告者：19SG**** 明治 学院

【テキストの内容】

1. 社会を可視化する (p. 1-p. 2)

<課題の提示>

目に見えない「社会」をどのように可視化するか？

→ 絵で描く、言葉で記述するなどの方法

(以下略)

章、セクション(§)、小見出しは必ず書くこと。

テキストの内容をまとめる部分は、基本的にアカデミックリテラシーで習ったことと同じです。ただし、コース演習では長くなりすぎないように、的確かつ簡潔な記述を心がけてください。文章化するよりアウトラインを箇条書きにして見やすく仕上げましょう。

【分りにくい語句の説明】

クラスター分析 (p. 9) :

「多数の対象を少数の群に分類する計量手法のひとつ。階層化型と非階層化が他の二種類がある。(…)」

(『現代社会学事典』 p. 314)

テキスト語句の意味を説明できるようにするのは、発表班の重要な使命です。自分たちがわからない語はすべて、国語辞典と社会学事典で調べて、重要なところを引用し、説明ができるようにしましょう。

社会学事典は、図書館5階参考図書コーナー361番台にある『現代社会学事典』(弘文堂、2012年)または『社会学事典』(丸善、2010年)。ときには図書館ガイドで習う Japan knowledge も使えます。

【考察】

◎「生きやすいわけではない社会」をどのように生きやすくするか考えるために「可視化された資料が必要不可欠」(p. 9-p. 10)という指摘が印象的だった。自分がどこに行くべきかを探すためではなく、こういう目的で地図を使い、また、新しい地図をつくるという考え方は、とても社会的だと思う。

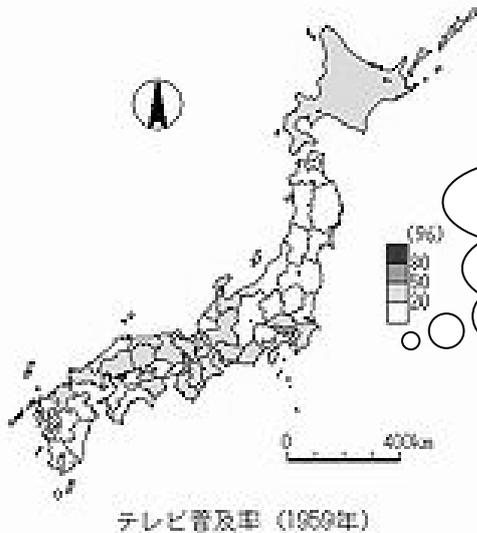
(以下略)

考察も、アカデミックリテラシーのレジュメと同じで、「自分なりに具体例を思い浮かべながら、テキストの説明をより実感をもって理解するよう」に書いていきます。もちろん、疑問点や反論もあり得ます。

ゼミの議論につなげられるように意識してみましょう。

グループでの発表ですから、考察は、複数あってもかまいません。

◎テキストに無料でダウンロードできるソフト MANDARA をつかえば社会地図を実際に作る事ができるというので、試してみた。下の図(1)は…



この地図は、地理情報分析支援システム MANDARA のサンプルをコピーしたダミーです
<http://ktgis.net/mandara/gallery/index.h>

テキストの「これから考え調べること」はぜひ考えて、考察に加えましょう。
テキストの理解を示すだけでなく、それをどこまで広げていけるかが、2年生「コース演習」の一つのポイントです。テキストと教室での議論をつなげることを意識しながら、レポーターの力量を見せてください。

【論点】

ゼミで、論じ合いたいテーマの候補です。

◎社会地図として可視化できる情報にはどのようなものがあるか、それらはどのような特徴をもつものなのか、考えてみたい。

< 1 > (以下略)

疑問から議論、発見へとつなげていくために、話し合う論点を出します。
ゼミを盛り上げるために、よい論点を示すことはとても重要です。論点を出すこと自体が、勉強になります。
テキストのポイントとなる概念の実例・経験例を挙げてみるといった簡単な論点や、テキストが論じていることに対してディベートのように賛否が拮抗する論点をあげると、テキストの理解が深まり、その先を考えることができます。
もちろん、グループで事前に議論したり、ディスカッションのための参考資料を用意したりすることが必要です。

<その他の注意>

- ◎事実、人の意見と自分の意見をきちんと分けて示すことが必要です。
- ◎テキストやほかの文献、ネット情報などからの引用は、必ず出典を明らかにします。(基本的な方法は、レポートの時と同じ「文献引用の手引き」に準じます。)

ディベートの手引き～コース演習～

A. ディベートとは？

ディベートの試合は、あるテーマに関して、肯定側の選手・否定側の選手による議論を通じて、周り(審判)を説得するゲームである。「対戦相手を言い負かす」ことが目的ではない。試合の勝敗を決めるのは審判(ジャッジ)である。

テーマは事前に決めておき、試合開始までに双方が準備を重ねておく。もちろん、パワーポイントや資料も使用してよい。ただし、両チームが肯定側・否定側のどちらを担当するかは当日じゃんけんで決める。どちらでも勝てる準備が必要である。

B. 必要な心構え

1. 自分の個人的意見はとりあえず横に置いておいて、肯定／否定の立場から可能な限りデータや事例を集め、それに基づいて自らの立場を論理的に主張する。
2. 論理的なゲームであり、相手の人格を尊重する。人間性を攻撃してはいけないが、相手の論理に矛盾やスキがあれば遠慮なく、徹底的に論理的に攻撃する！ このゲームにおいては「空気を読む」必要はなく、普段の議論とは性質が違うものと理解する。
3. 相手の弱点を露呈させるという意味では、質疑(Q&A)の時間が非常に重要である。一連の質問を用意しておき(それに相手の論理に即した質問を即興で付け加えて)、相手の主張は論理が薄弱であり、証拠が不十分であることを質問しながら暴露したい。このとき質問側は、自分の主張を論じないように気をつける。あくまで質問に徹する。逆に回答側は質問への回答に徹して、逆に相手の質問を利用しながら自分たちの主張の正当性を説明するよう努める。
4. メンバー間で役割分担をし、持ち寄った資料・データをできるだけ使い、どのような論理構築で戦うか作戦を事前に相談する(グラフなどの図表にしたり、論点を箇条書きにして視覚に訴えると説得力が増す)。チーム全員がバランスよく貢献することが高評価につながる。質疑(Q&A)の時間に誰がどのような質問をするか、どの問題について誰が答えるかも、大まかに役割分担しておけるとよい。
5. 冷静に自信たっぷりに明瞭な話し方をする演技力も説得力の一部と言える。ときにユーモアを交えた反駁も有効。相手をバカにするような態度、強引な言いくるめなどは減点対象。話す時の時間配分も重要(時間切れや、逆に大幅な時間余りは、よくない)。
6. 最初にチームの論点を全部出す(直前の相手の主張への反論はもちろん後にならざるを得ない)。最後の方で新たな論点・主張点を展開するのはフェアじゃない。また、論点は、それを言い出した方が証明の義務を負うのが原則。反論する側は、まず相手が充分証明していない点をアピールし、さらにそれを反証するデータなどが出せるとよい。

☆ディベートについての詳細は、日本ディベート協会のサイトも参照。

<http://japan-debate-association.org/>

C. 進め方

1. 質疑の時間を除き、すべてのスピーチは正面の論壇に立って、審判の方を向いて行う。説得の対象は対戦相手ではなく、審判であることを意識しながら話すように注意。
2. 肯定側の班、否定側の班、さらには審判(ジャッジ)である2班に分かれる。なお、審判には教員も加わり、試合後に審判による審査投票を行う。
3. 1チームの構成は原則として、立論・質疑・第一反駁・第二反駁の各担当者4名である。ただし、人数が4名でない場合は、班内で相談して調整する。

【ディベート 28分】

- (1)-1 肯定側立論 (3分)
↓ (作戦タイム1分)
(1)-2 否定側質疑→肯定側応答 (2分)
↓
(2)-1 否定側立論 (3分)
↓ (作戦タイム1分)
(2)-2 肯定側質疑→否定側応答 (2分)
↓ (作戦タイム3分)
(3)-1 否定側第一反駁 (3分)
↓
(3)-2 肯定側第一反駁 (3分)
↓ (作戦タイム3分)
(4)-1 否定側第二反駁 (2分)
↓
(4)-2 肯定側第二反駁 (2分)

4. 時間構成

作戦時間 (5分)

(1)-1、(2)-1

主張：賛成か反対か(当日決定)

根拠：具体的なメリットあるいはデメリット

(第一に、第二と列挙するのも良い)

(1)-2、(2)-2 質疑

立論の内容(事実や主張)に関する確認や質問。ただし、それを通して相手の立論の怪しさをジャッジに印象づける。(反論や自らの立論はしない。)

(3)-1、(3)-2 第一反駁

相手側の立論の根拠、証拠を崩していく。なお、新しい論点は提出してはいけない。

(4)-1、(4)-2 第二反駁

最後に議論を踏まえて主張をまとめる

D. 判定

(1)意見集約(グループごとに各人の点を合計する)(3分)

各班内での個々人による判定をまとめて、班ごとの判定結果に集約する。

(2)判定(グループごと)+教員(2分程度)

つまり、2班+教員=3票あるので、これで勝負を決める。

そのように判定した理由を、簡単に述べる。

◆判定の基準

(賛成・反対双方に対して)

- ・立論の妥当性・説得性 10点
- ・質疑への応答の説得性 5点
- ・第一反駁の説得性 10点
- ・第二反駁の説得性 5点

◆評価すべき点

- ・論理的か否か：主張が筋道だっているか、資料の提示があるか、など
- ・相手に対する応答が適切か：相手に答えているか、反論が適切か、など
- ・チームワーク：連携が取れているか、など
- ・発表態度：声の大きさ、話し方、時間配分、など

採点表（本番で使用）

1回目テーマ：

	肯定側 (グループ ____)	否定側 (グループ ____)
立論の妥当性・説得性 (10 点中)		
質疑への応答の説得性 (5 点中)		
第一反駁の説得性 (10 点中)		
第二反駁の説得性 (5 点中)		
合計		

2回目テーマ：

	肯定側 (グループ ____)	否定側 (グループ ____)
立論の妥当性・説得性 (10 点中)		
質疑への応答の説得性 (5 点中)		
第一反駁の説得性 (10 点中)		
第二反駁の説得性 (5 点中)		
合計		

社会統計・社会調査データ収集ガイド～コース演習～

- ◆ 地域の基本状況を知るのには、まず五大センサス（国勢調査、工業統計調査、商業統計表、農林業センサス、経済センサス）を調べます
- ◆ 分野によって、ここからスタートするという基本的な調査があります
- ◆ 事実を調べる統計だけでなく、意識や行動を聞いた意識調査を利用することも多いです

※インターネットの URL は頻繁に変わるので、ここにはサイトの名前のみ載せておきます。検索サイトで検索して URL を探してください。

(1) 政府統計

政府統計の総合窓口「e-Stat」

- ・ サイト内の「統計関係リンク」で各府省庁の統計の概要がつかめるほか、検索機能などが充実しているため、ぜひ1度見ておくこと

※ 以下、各府省庁で集めている情報をあげるため、関心のある分野の省庁ページの「統計情報」のページをしてみる（すべて e-Stat からリンクされている）

※ 各省庁の「白書」も参考になる（新しいものは HP 上から閲覧できる）

内閣府（男女共同参画、青少年、少子高齢化、各種世論調査）

（有名な調査）国民生活に関する世論調査、社会意識に関する世論調査など

総務省（基本的な社会調査類、通信・情報）

（有名な調査）国勢調査、労働力調査、経済センサス、住民基本台帳人口移動報告年報、サービス産業動向調査、住宅統計調査、人口推計、家計調査、社会生活基本調査、通信・放送産業基本調査、通信産業実態調査、放送番組制作実態調査、通信利用動向調査など

警察庁（警察、犯罪、少年非行）

厚生労働省（人口・世帯、保健・医療、福祉、社会保障、賃金、労働・雇用等）

（有名な調査）人口動態調査、21世紀出生児縦断調査、21世紀成年者縦断調査、人口移動調査、出生動向基本調査、毎月勤労統計調査、若年者雇用実態調査など

国立社会保障・人口問題研究所（人口・世帯、結婚・出産・離婚、移動、社会保障）

文部科学省（学校教育、社会教育、文化・スポーツ、科学技術）

（有名な調査）学校基本調査など

環境省（環境、公害）

経済産業省（経済活動、各種産業、消費）

（有名な調査）工業統計調査、商業統計表、特定サービス産業実態調査報告書など

資源エネルギー庁（環境、エネルギー問題）

農林水産省（食料、農林水産業）

（有名な調査）農林業センサスなど

国土交通省（土地、建築、国土、交通、運輸・物流）

（有名な調査）大都市交通センサス、物流センサス、貨物地域流動調査、旅客地域流動調査、土地基本調査など

法務省（法律・司法、犯罪・矯正、訴訟、登記、戸籍・出入国管理）

(2) その他 Web 上で閲覧できる重要な調査等

JGSS

- ・ 2000 年からほぼ毎年実施されている多様な意識・行動項目を盛り込んだ全国調査
- ・ 大阪商業大学 JGSS 研究センターにてデータを公開、学部生（卒論など）やそれ以外の授業での利用も可能。これまでの成果である研究論文集がダウンロードして読める

全国家族調査 National Family Research of Japan (NFRJ)

- ・ 日本家族社会学会が 1998 年以降 4 回実施している全国家族調査
- ・ HP で過去の調査報告書の内容すべてをダウンロードして読める。公開データだが、利用は大学院生以上

財団法人家計経済研究所

- ・ 消費生活に関するパネル調査、家計調査ほか閲覧できる

ベネッセ教育総合研究所

- ・ メニューの「調査・研究データ」から、ベネッセで行った調査（子ども、教育関係）へアクセスできる

東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター

- ・ 統計調査、社会調査の個票データを収集・保管し、学術目的での二次的な利用のために提供（データ申請は、大学又は公的研究機関の研究者、教員の指導を受けた大学院生のみ可能だが、各種データの検索と概略の閲覧ができる）

(3) そのほか役立つサイト名

①本

- ・ **CiNii Books**

国内の大学や研究機関の図書館の書籍の横断検索、明治期以降の書籍の情報収集にも

- ・ **Bookplus** (学内) 昭和以降の国内刊行図書を目次など内容からも検索できる

- ・ **国立国会図書館 NDL-OPAC**

唯一の国立図書館として、納本制度に基づき蔵書を構築 (日本最大の図書館)、貸出不可

②インターネット書籍検索・販売 (流通状況の把握にも)

- ・ **Books.or.jp**

日本書籍出版協会「データベース日本書籍総目録」中、現在購入可能な既刊分を検索可

- ・ **Amazon**

- ・ **紀伊国屋 Book Web**

- ・ **大学生協書籍インターネットサービス**

組合員ならば割引で購入可

③論文・専門的な書物

- ・ **社会学文献情報データベース** 日本社会学会に登録された雑誌論文や著作の情報検索

- ・ **J-STAGE** 日本社会学会の『社会学評論』等メジャーな学会誌の論文が検索・閲覧可

- ・ **社会老年学文献データベース Dial** 社会老年学に関する文献が検索・閲覧可

④統計以外によく参考にするデータ

- ・ **国立国会図書館 近代デジタルライブラリー** 明治・大正期の書籍をデジタル閲覧できる

- ・ **政策情報プラットフォーム** 政府機関および政府関係機関等に所在する情報のデータベース

- ・ **ソキウス**

野村一夫さん (國學院大學) の社会学系サイト。社会学全般の情報・読み物が充実

迷ったときは・・・

- ・ 明治学院大学図書館とそのホームページを活用しよう!

- ・ 国立国会図書館の「リサーチ・ナビ」(資料探しの入り口) も非常に参考になる!

※ 学内のみで検索できるデータベースには、情報センターで SSL-VPN というサービスに申し込むことで学外からアクセスする権利を得られます。ぜひ申し込んで利用しましょう。

社会学科の授業で使用する教科書および参考書の紹介

教科書（アカデミックリテラシー，社会学基礎演習，他）



塩原良和・竹ノ下弘久編
『社会学入門』弘文堂 2010年

教科書・参考書（社会調査の基礎，社会調査の技法，データ分析入門，数量データ分析，他）



大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著
『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 2013年

図書館文献検索ガイド～図書館より社会科学生のみなさんへ～

教室が研究・学習の第一歩だとすると、図書館は第二の教室です。学生のみなさんが本や雑誌論文を見つけ、図書館員と相談し、調査を行い、レポートや論文を書き、学ぶ場所です。グループでディスカッションや発表の準備ができる場所もあります。図書館を大いに利用し、社会へ出ても通用する情報リテラシーを身につけてください。

■図書館ハンドブック ～明学生のための図書館 100%活用ガイド～

入学時の新入生オリエンテーションで全員に配布しています。基本的な資料の探し方から専門的な資料の探し方・使い方まで、様々なシーンで活用できる内容になっています。

レポートや論文を執筆するとき、学生のみなさんがアカデミックな作業のプロセスを一步一步進んでいけるように、学習のサポートツールとなるように作りました。

【WEB版図書館ハンドブック】

アクセス方法

- ・ポートヘボン>学生生活>図書館>図書館ハンドブック
- ・MyLibrary>利用者サービス>図書館ハンドブック
- ◆お気に入りに入れて、PC・携帯からいつでもアクセスください！



■図書館ポータル MyLibrary

MyLibrary とは、明治学院大学図書館が提供する図書館サービスポータルサイトです。

図書予約、他キャンパスからの取り寄せ、返却期限の延長、購入希望や文献複写／貸借の申込みがオンラインでできるほか、新着情報を入手したり、気になった本にブックマークをつけることもできます。ポートヘボン、OPAC トップ、図書館ウェブサイトのトップにログイン画面へのリンクがあります。ポートヘボンからはログインなしにアクセスできます。それ以外はポートヘボンと同じ ID/パスワードでログインしてください。

■図書館ウェブサイト <<http://www.meijigakuin.ac.jp/library/>>

図書館ウェブサイトは、最新ニュース、利用案内や蔵書・情報検索など、利用目的に応じて必要な情報へアクセスできます。図書館が行っている学習支援活動のお知らせや各種パスファインダーなど、学習に役立つ情報も掲載しています。「図書館について」のページでは、図書館のイベント情報も紹介しています。

ぜひ注目してください！

課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～

明治学院大学社会学部社会学科
「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」

課外活動のてびき

**危ない目に合わない
人に迷惑をかけない
怪しまれない**

社会について学ぶには、社会を知る必要があります。社会調査にはもちろんいくつものルールがあり、そのルールについては「社会調査の基礎」(1年次春学期)から始まる一連の社会調査関連科目の中で、少しずつ身に付けていていただきます。ですから、本格的に社会調査を実習するのは3年生になってからです。

ただ、ちょっと視点を変えてみたり、今まで見過ごしていたものに注意したりするだけでも、新たな発見が生まれるかもしれません。そこで、2013年度から一年次の「アカデミックリテラシー」と「社会学基礎演習」では、グループで大学の外に出て、街を新たな視点で観察してみる課外活動を行うことにしました。

社会調査に向けた基礎的な注意事項を学ぶ前に行う課外活動ですので、「フィールドワーク演習」や「社会調査実習」以上に、慎重に行動していただくかなくてはなりません(万一トラブルが生じた場合、すぐに課外活動が停止になってしまう恐れがあります)。

課外活動を行うにあたっては、次のことにくれぐれも気を付けてください

法律や交通ルール、立ち入り禁止の規制などを守るのは当然で、大学生としてのマナーが普段以上に重要なことも言うまでもありません。これについては、書かなくても大丈夫ですね???

「危険なところに近づかない」

…写真を撮るために車道に出ていく、普段なら近寄らない怪しい区画に踏み込んでみる、夜の街を歩いてみる、などの行動はしないでください。大事なものは、「いかにも珍しそうな冒険」ではなく、「日常の街を新たに観ること」です。

「人に迷惑をかけない」

…街の人に話しかける、並んで歩いて通行の妨げになる、家族や友達に協力を依頼する、などの行動は慎みましょう。学校の課題だからというのは、誰かに迷惑をかけたり、頼みごとをしたりする理由にはなりません。(なお、他人への依頼については、社会調査関連科目の中で学びます。)

「怪しまれない」

…これが一番難しいのです。普段だったら大学生が2、3人しゃべりながら歩いていても、街の人は気にしません。でも、「あれ、この町のことを言っているみたいだ」と気が付いたら、「悪口じゃないか?」「何か、いたづらを?」と気になるかもしれません? ですから、課外活動の際には、コンビニや道路などでのおしゃべりは、しないでください。そのほか、お店、学校、人家などを覗き込む、写真を撮る、近所の人しか通らない路地に入り込む、などの行為も怪しまれるものになります。

「トラブル（かもしれないこと）にあったら」

… 怪しまれた・怒られた場合　まずは素直に謝りましょう。課外活動の趣旨をきちんと説明して、納得していただければ問題ありません。重ねてお詫びして、帰りましょう。どうしても納得していただけない場合、本学社会学部の連絡先をお知らせし、よほどの場合には、その場で連絡してください。なお、自分の電話番号や実家住所など、個人情報を伝えるのは避けてください。

… 親切に話しかけられた場合　この場合は、むげに断らず、有効な情報は教えていただきます。ただし、個人宅などにあがること、どこかについていくこと、個人情報を教えることは避けてください。「課外活動として、学校から禁止されている」と伝えていただいで結構です。

… 身の危険を感じた場合　とにかく安全なところまで逃げましょう。その後、速やかに担当教員に連絡してください。

「緊急時の連絡先」

明治学院大学	社会学部共同研究室	03-5421-5570
	社会調査実習室	03-5421-5349

社会学部生のための文献引用の手引き

次のページから始まる「社会学部生のための文献引用の手引」は、社会学部の専門科目の課題レポートから卒業論文まで使う、引用の手続きをまとめたものです。

卒業までのすべてのレポートや論文は、この手引きの引用手続きのいずれかの方法を遵守して作成してもらいますので、ぜひ早いうちから慣れてしまいましょう。同じものは、いつでも学部ホームページで見ることができます。



社会学部生のための文献引用の手引き

三大原則

1. レポート・論文作成時の盗作厳禁
2. 自分の文章中で、文献や資料を参考にした箇所は明示すべし
3. 参考にした文献や資料は明記すべし

レポート・論文作成の際には、この三大原則に基づいた文献引用のルールを守らねばならない。守らない場合には、単位を落とす・評価が下がるなどの不利益を被っても文句は言えない。

引用には、元文献の記述をカッコ（「」）でくくってそのまま用いる「**直接引用**」と、元文献の記述を自分なりにまとめた「**間接引用**」がある。「間接引用」であっても、直接引用と同じく、参考にした文献の情報を本文中に必ず表示しなければいけない。

本文中に文献情報を表示する方式（文献挙示方式）には、大きく分けて次の2つがある。

I.注を付ける方式

II.簡略情報を表示する方式

担当教員から特別の指示がない限り、社会学部生は原則としてこのどちらかの方式に従わなければならない（教養科目等で別の方式を習った場合も、社会学部では本手引きに従うこと）。以下では、その2つの方式をそれぞれ具体的に説明する。また、両方の方式に共通して守らなければいけない原則も最後に説明する。

I. 注を付ける方式

(1) 基本的な考え方

引用・参照文献についての情報（文献注）と本文の補足説明（説明注）を一括して表す。

(2) 実際の手順

手順1: 引用箇所の直後に、上付き 1/4 サイズの丸括弧数字(「(1)」など)で注をつける。

・・・橋爪大三郎によれば、「愛ゆえの結婚」というドグマが成立するためには、第一に、ピューリタンの性愛倫理が成立し、そのうえで、第二に、内面的な主体性が承認されなくてはならなかった⁽¹⁾。・・・
・・・ミシェル・フーコーによればこの孤立化の積極的な効用に関して、トクヴィルは次のように主張しているという。「孤立状態に投げ込まれると受刑者は反省する。自分の犯罪にただひとりで直面すると、その犯罪を憎むことを学ぶのであって、その塊が悪によって無感覚になっていなければ、いずれ後悔がその塊を覆うようになるのは孤立状態においてである」⁽²⁾。

手順2: レポートの巻末に、各々の注に対応する中身(文献情報または本文の補足説明)を一覧表にして記す。

注

- (1) 橋爪大三郎『性愛論』岩波書店，1995年，pp.115-185.
- (2) フーコー, M. 『監獄の誕生：監視と処罰』（田村俣訳）新潮社，1977年，p.236.
- (3) ここでいう××とは・・・
- (4) 前掲(1), p.120.

補足：①注の番号は通し番号にする。

②注は番号ごとに改行する。

③注(3)のようにして、論旨に直接関係はないが、本文でふれた事項をさらに補足説明する場合にも注は用いられる（説明注）。

④同一文献を再度引用する場合は、注(4)にあるように「前掲(1), p.120」のように記す。これは、「注(1)で表示した文献の120ページを参考にした」、という意味である。

(3) 注の中での文献情報表示形式

文献と一口にいても、色々な種類があり、それぞれ示すべき情報が微妙に違う。以下の原則に従い、過不足なく文献情報を表示しなければならない。

※ 著者が複数いる場合、記載された順に書く

※ 全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない

※ 該当頁は「p. ○」または「pp. ○-○」（複数頁にまたがる場合）と表記する

① **日本語単行本**：著者名『書名：副題』出版社名，出版年+年，p.+引用頁.

例)

小熊英二『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社，1995年.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之『社会学』有斐閣，2007年，p.5.

② **日本語編書全体**：編者名+編『書名』出版社名，出版年+年.

例)

船橋晴俊編『講座環境社会学2：加害・被害と解決過程』有斐閣，2001年.

③**日本語編書の一部**：著者名「論文題名」，編者名+編『書名』出版社名，出版年+年，pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。

例)

船橋晴俊「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」，船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12：環境』東京大学出版会，1998年，pp.191-224（p.191）。

④**翻訳書**：著者名『訳書名』（訳者名+訳）出版社名，翻訳の出版年+年，p.+引用頁。

※著者名は、ファミリーネーム，ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル。の順に並べる（以下同様）。

例)

フロム，E.『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社，1951年，p.256。

⑤**日本語雑誌論文**：著者名「論文題名」『雑誌名』巻(号)，出版年+年，pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。

例)

山本泰「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，1993年，pp.262-281（p.270）。

⑥**翻訳論文**：著者名「翻訳論文の題名」（訳者名），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。

例)

マッカーシー，J. M.・メイヤー，N. Z.「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，1989年，pp. 21-58（p. 23）。

⑦**外国語単行本**：著者名，_書名，_出版社名，_出版年，_pp。+引用頁。

※「_」は半角スペース（以下同じ）

例)

Parsons, T., *The Social System*, Free Press, 1951, pp. 1-25.

⑧**外国語編書**：編者名 ed.,_書名，_出版社名，_出版年，_p.+引用頁。

※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする

例)

Camagni, R. ed., *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press, 1991, p.30.

⑨**外国語編書の一部**：著者名，“論文名，”編者名 ed.,_書名，_出版社名，_出版年，_pp.+論文の初頁-終頁(p.+引用頁)。

例)

Beck, U., “Self-dissolution and Self-endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,” Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, 1994, pp.174-183 (p.175).

⑩**外国語雑誌論文**：著者名, "論文名," 雑誌名_巻(号), 出版年, pp.+論文の初頁-終頁(p.+引用頁).

例)

Wrong, D. H., "The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology," *American Sociological Review* 26, 1961, pp.183-193 (pp.183-184).

⑪**年次刊行物**：編集機関名『題名』年次, p.+引用頁.

例)

経済企画庁『国民生活白書』平成6年版, p.101.

⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）.

例)

「14歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30朝刊）。□執筆者名が明らかな場合は⑤⑥に準じる。

⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り），最終更新年（判明する限り），「題名」（URL）
閲覧年月日+閲覧.

例)

日本社会学会, 2006, 「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」
(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf>) 2017.2.9 閲覧.

例)

「明治学院大学社会学部」(<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>) 2017.2.10 閲覧.

II. 簡略情報を表示する方式

(1) 基本的な考え

- ①引用・参照した文献の書誌情報を示す「簡略情報」を本文中に埋め込み、それに対応する「参考文献一覧」を文末に載せる。
- ②注は、原則として、説明注（本文の補足説明）としてのみ用い、文献注としては用いない（ただし例外あり）。

(2) 実際の手順

手順1: 簡略情報「(著者の姓_出版年:_引用ページ)」を文中に埋め込む(※「_」は半角スペース)

・・・そこで哲学者のエヴァ・フェダー・キテイは、互惠性を拡大した社会的協働として「ドゥーリア」⁽¹⁾という原理の導入を提唱する。これは、「私たちが人として生きるためにケアを必要とするのと同時に、私たちは、他の人々——ケアの仕事をする人々を含む——が生きるのに必要なケアを受け取れるような条件を提供する必要がある」という原理である（キテイ 2010: 244）。そしてこの原理は、「ケア提供者(care-givers)とケア享受者(care-receivers)のウェルビーイングがともに社会関係のネットワークのもとで成立する」ことを前提とする⁽²⁾。

ただし、保育や医療の現場では、ケア提供者とケア享受者は必ずしも社会的協働の関係にはない（Kittay 2001; 岡野 2012）。2016年3月13日の朝日新聞の記事⁽³⁾では、朝日新聞デジタルのアンケート調査（回答数 436）を元に次のような結果が報告されている。すなわち・・・

手順2: 論文もしくはレポートの末尾に注と参考文献表をつける

注

- (1) 「ドゥーリア (doulia)」とは、出産後、はじめて赤ん坊を世話することになる母親をサポートする人を指す「ドゥーラ(doula)」をアレンジしたキテイによる造語である（キテイ 2010:158）。
- (2) この点については、次の解説に詳しい。Sander-Staudt, M., "Care Ethics," The Internet Encyclopedia of Philosophy (<http://www.iep.utm.edu/care-eth/>), 2017.01.24 閲覧.
- (3) 「最期の医療、どう決める？」『朝日新聞』（2016.3.13 朝刊）。

参考文献（日本語）

岡野八代, 2012, 『フェミニズムの政治学』みすず書房.

キテイ, E.F., 2010, 『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』（岡野八代・牟田和恵監訳）白澤社.

参考文献（外国語）

Kittay, E.F., 2001, When Caring Is Just and Justice Is Caring: Justice and Mental Retardation, *Public Culture*, Volume 13, Number 3, pp.557-579.

補足：①日本語文献は姓の50音順、外国語文献は姓のアルファベット順とする。同一著者の場合は出版年順とする。同一著者で出版年が同じ書籍の場合は、「(山田 1996a: 95)」「(山田 1996b: 103)」などと、出版年にabc...をつけて区別する。

②著者が2名以上の場合は、「・」でつなぐ。3名以上いる場合は、2人目以下を「他」として省略してよい。なお、手順2で説明する参考文献表内では省略しない。

③新聞記事などで著者名が不明な場合は、本文中に簡略情報を記すことが困難なので、方式Iと同じように文献注を使ってもよい（上記「手順2」の「注(2)」および「注(3)」参照）。

(3)文末の参考文献一覧表の中での文献情報表示形式

※著者が複数いる場合、記載された順に書く

※全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない

※該当頁は「p. o」または「pp. o-o」（複数頁にまたがる場合）と表記する

①**日本語単行本**：著者名，出版年，『書名：副題』出版社名.

例)

小熊英二，1995，『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2007，『社会学』有斐閣.

②**日本語編書全体**：編者名+編，出版年，『書名』出版社名.

例)

船橋晴俊編，2001，『講座環境社会学 2：加害・被害と解決過程』有斐閣.

③**日本語編書の一部**：著者名，出版年，「章題名」編者名+編『書名』出版社名，pp.+章の初頁-終頁.

例)

船橋晴俊，1998，「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12：環境』東京大学出版会，pp.191-224.

④**翻訳書**：著者名，翻訳の出版年，『訳書名』（訳者名+訳）出版社名.

※著者名は、ファミリーネーム，ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル.の順

例)

フロム，E.，1951，『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社.

⑤**日本語雑誌論文**：著者名，出版年，「論文題名」『雑誌名』巻(号)，pp.+論文の初頁-終頁.

例)

山本泰，1993，「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，pp.262-281.

⑥**翻訳論文**：著者名，翻訳論文の出版年，「翻訳論文の題名」（訳者名+訳），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），pp.+論文の初頁-終頁.

例)

マッカーシー，J. M.・メイヤー，N. Z.，1989，「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，pp.21-58.

⑦**外国語単行本**：著者名，_出版年，_書名，_出版社名.

※「_」は半角スペース

例)

Parsons, T., 1951, *The Social System*, Free Press.

⑧**外国語編書**：編者名 ed.,_出版年,_書名,_出版社名.

※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする

例)

Camagni, R. ed.,1991, *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press.

⑨**外国語編書の一部**：著者名,_出版年,_"論文名,"_編者名 ed.,_書名,_出版社名,_ pp.+論文の初頁-終頁.

例)

Beck, U., 1994, "Self-Dissolution and Self-Endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,"

Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, pp.174-183.

⑩**外国語雑誌論文**：著者名,_出版年,_"論文名,"_雑誌名_巻(号),_ pp.+論文の初頁-終頁.

例)

Wrong, D. H., 1961, "The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology," *American Sociological*

Review 26, pp.183-193.

⑪**年次刊行物**：編集機関名，出版年，『題名』年次.

例)

経済企画庁，1994，『国民生活白書』平成6年版.

⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）.

※執筆者名が明らかな場合は明記する。電子版の新聞記事の場合は、⑬に準じる。

例)

「14歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30朝刊）.

⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り），最終更新年（判明する限り），「題名」（URL）

閲覧年月日+閲覧.

例)

日本社会学会，2006，「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」

(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf>) 2017.2.9 閲覧.

例)

「明治学院大学社会学部」(<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>) 2017.2.10 閲覧.

Ⅲ. 引用時の諸注意

(1)直接引用

元著者の表記を尊重し、誤字があっても、最大限原文通りに記載する。ただし、引用文中にカッコが用いられている場合、引用文中のカッコは引用を示すカッコ（「」）と区別するため二重カッコ（『』）に変更する。

(2)名前の表記法

Ⅱで説明した文献の簡略情報を表示する際以外に本文中に記載する人の名前は、初出のときは姓名を書き、2度目以降は姓のみでもよい。一般的に、敬称（先生、教授、博士など）は付けない。

(3)インターネット上の情報

不特定多数の人間によって頻繁に更新されるもの（例えば Wikipedia）や掲示期間の短いもの（新聞のネット記事等）は引用に適さない。

(4)孫引き

A という著者の文章を引用した B という著者の文章に基づいて、A の文章をレポート・論文の中で引用すること（孫引き）は原則として避けるべきである（原典に当たることが望ましい）。やむをえない場合は、注で両者の関係を明確に示す。

社会学科生のための学びのガイド 2019

2019年4月1日発行

編集・発行 明治学院大学社会学部社会学科
〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

印刷所 (有)ワックプロダクションズ

表紙の絵・イラスト (7, 11, 19, 32 ページ)

水谷史男